

## 医師・看護師の増員等を求める意見書

今日、医師・看護師不足が大きな社会問題となり、地域住民の不安が広がるとともに、和歌山県内のどの医療機関も大変な苦慮を強いられている。背景には、急速な高齢化や医療の高度化などがあるといわれている。

医療事故をなくし、安全・安心でゆきとどいた医療・看護を実現するためには、医療従事者がゆとりと誇りを持って働き続けられる職場づくりが不可欠である。

しかし、産科・小児科をはじめとした医師不足、全体的な看護師不足が深刻化し、医療現場の実態はかつてなく過酷になっている。看護師への調査では「十分な看護が提供できている」との回答は8.1%でしかなく、73.1%が「仕事を辞めたいと思っている」ほどである。

については、政府並びに和歌山県におかれては、そういった現実を踏まえ住民が安全・安心に生活できるよう、下記事項について実施されるよう強く要望する。

### 記

1. 地域医療を充実させるために、医師確保対策を強化されたい。
2. 看護師など医療従事者を大幅に増員されたい。
3. 看護師養成所を日高郡内に開設されたい。また院内保育所を充実させるなど、看護職員確保対策を強化されたい。

(意見書提出先) 内閣総理大臣・厚生労働大臣・和歌山県知事

## 東西南北

社会保険庁の驚くべき杜撰ずさんさが明らかとなり、年金に対する国民の不安と怒りは当然と言えます。

一方、朝鮮総連の建物をめぐって、法曹界の大立者に疑惑が向けられています。この国では職業倫理とかノブレス・オブリージュ注という言葉はもう死語と化してしまっただけか、と、ここまで書いてハタと筆が止まる。はたして彼らだけを責め立てて済むのだろうか。私達国民もいくつかの

大切な徳目を忘れ去ってはいまいか。

「国家の品格」は国民の品格にかかっている。猛暑の中、高校球児のプレーだけが衣服の清涼剤というのでは余りにも情けないではないか。

そんなことを自省と自戒の中で考えさせられるこの頃です。

暑中お見舞い申し上げます。

(注) ノブレス・オブリージュとは、多くの財産権力、社会的地位のある者には責任が伴う事をいう。



7月13日、和歌山東急インで町村議会全議員研修会・人権研修会が開

## 「舞台裏から見た 政局・政治展望を受講

催されました。

講師はテレビ朝日キャスター・コメンテーター三反園訓氏。「舞台裏から見た政局・政治展望」を受講しました。小泉元首相にまつわる数々のエピソードや「長期政権になる条件」、「人気政治家の条件」などについて、有名な政治家と接した経

験から興味深い話を聴くことができました。

次に、和歌山社会経済研究所専務理事兼事務局長高嶋洋子氏による「人権文化の創造のために」と題した講演を受講しました。

和歌山県職員として共生推進局長、男女共生社会推進センター所長、企画部長を歴任された経験から、私たちの身近にある人権問題をテーマに講演されました。